平成27年度　第３回大阪府社会教育委員会議

日時　　　平成27年12月10日（木）10時～12時

会場　　　大阪府庁新別館北館４階　職員会議室７・８

出席者　　萩原議長、土居副議長、岸村委員、藤田委員、村田委員、杉島委員、尾﨑委員、

藤井委員、金子委員、竹下委員、面屋委員

主な意見　第3次計画素案に対する助言

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 第１章 | １　なぜ計画の策定が必要か（計画策定の背景） | 第１次計画の総括が欠けている。 |
| 学校司書の配置の拡大をフォーラム等の実施や各種研修の成果とする、高等学校の司書教諭の100％配置を2次計画の成果とする記述は正確でない。 |
| 第２章 | １　基本理念 | ＜子どもの読書活動推進の意義＞の冒頭部分の主語・述語が混乱している。 |
| ２　子どもの読書活動推進のための基本方針 | 基本方針に読書の「楽しさ」、「感動」に関する記述を加えるとよい。 |
| 第３章 | １　具体的な取組みの体系とその指標 | 一斉読書は中学生は効果があるが高校生に一律に課することは疑問。 |
| ２　子どもが本と出合うために（きっかけづくり） | 府が主体となって進める取組みとして、図書館はブックリストをつくるべき、また図書館だけでなく書店や街なかなど、子どもや保護者が訪れる場所に配置すべき、ブックリスト作成にあたっては、司書だけでなく様々な人の意見を聞いて作成すべき |
| 新刊紹介について保護者も対象にしてほしい。 |
| 社会全体で取組みを進めるための実践例の表題について「実践例」という表記が堅い印象、表題の付け方に工夫を |
| ３　子どもが本と親しむために（本を読むことの習慣化） | 社会全体で取組みを進めるための実践例に、読書ノート運動や「書店に行く」ことについて推奨すべき |
| 第４章 | ２　子どもの発達段階に応じた取組み | 中学生期と高校生期は課題や取組みが異なるため、別々に記述するべき |
| ３　子どもの生活の場ごとに応じた取組み | 保健センターの役割を追記すべき |
| 第５章 | ３　用語解説 | 用語解説をきめ細かくした方がよい |
| その他 | 読書・読書活動の表記 | 「読書」、「読書活動」の書分けができていない |
| 電子媒体・書籍の表記 | 「電子媒体」、「電子書籍」の表記が混在 |
| 不読率の定義 | 「不読率」の定義が2つの調査から出典されており、混在している |
| 学習と読書の関係 | 学習活動に活かすため「学ぶ」のキーワードを取りいれることにより教委として取り組みやすくなる |
| ボランティアとの連携 | ボランティアに関する標記「活用」等、上からの視点の書きぶり |
| ボランティアの活動範囲に配慮が必要 |
| ボランティアをどのように育てていこうとしているのかがわからない。特に支援が必要な子どものボランティアは不足している。 |
| ボランティアの実情の把握、研修、支援についての考え方を示すべき |
| 重点取組 | 府の取組みを重点取組との関係性もたせてわかりやすく |
| 学校との連携 | 担任教師へのアンケート等を活用した現状把握が必要 |